



医学部長寄稿

大変な時代です、講座を超えて考えましょう

医学部長 兼子 直



法人化後の医学部（医学科）予算案が組まれました。平成十六年度国立大学法人弘前大学予算配分方針を尊重しつつ、共通事業費、共通管理費を控除した額を一部傾斜配分などの従来の方式で各講座へ配分すると、四十三講座中二十三講座にマイナスの配分となり、マイナス配分の合計額が千六百万円を超えることになりました。支出予算は、本年度の五千二百萬円の減額に加え、平成十四年度及び十五年度の減額分を合わせますと、合計は一億円を超え、削減となっており、人件費以外の経費合理化では吸収できない状況です。そのため、学長には緊急的財政支援をお願いをしました。

研究費から医学科へ5%、大学へ5%を提出する（）が果たして教育・研究・管理を評価して校費を傾斜配分するという趣旨に添うか否か、これが医学科のスタッフの志気を高め、教育・研究・臨床の水準を向上させることにつながるか否か、検討しなければなりません。これら問題については将来構想と併せて、講座を超えた医学科全体の問題として十分討議し、英知を結集し、乗り越えなければならぬ課題と考えております。翻って、医学科の将来構想を具体化するため、基礎・臨床融合型研究プロジェクト立ち上げも検討したいと思っております。限られたマンパワーで現在の水準を超えた研究を展開するには各講座が持つ力を結集し、影響力のある実績を世に出す必要があり、全国に先駆け導入した医局廃止の実体化については、新たな陣容で出発した地域医療対策委員会が頑張っております。マスコミで報道されましたが、県当局も地域医療、医師確保に本腰を入れ始めており、この委員会に期待が集まっております。

さて、大学が独立法人化され、新たな組織である学長選考会議ができました。現在、どのような方法で学長を選出するかについて検討中ですが、大学の命運は学長の運営により大きく影響を受けることは間違いありません。そのためこの会議は非常に重要で、学外委員を交えて熱心に討議して



大学全入時代を迎えて

医学部医学科入試専門委員長 佐藤 敬

文科科学省によると、二〇〇七年には我が国の全大学の総入学定員と大学受験者数が六九万九千人でほぼ一致すると試算されており、これは従来の予測より一年早くなったと最近発表されました。このことは単純化するならば、大学や学部を選ばなければ受験生全員が入学できる時代に入ることの意味すると言われま

る可能性はある。どこまで選挙権・被選挙権を認めるのか等々、検討すべき課題は山積みです。しかし、大学が発展するためには学外の知恵を受け入れ、学内の論理をどのように高めるかが重要なことには疑いの余地はないように思います。

生の母集団となると決して小さくはないと推測され、そのことが、北東北三大学が札幌での合同説明会を開催する理由でもあります。事情は翌朝のテレビニュースで明らかになりました。夏休みに入つて最初の週末であった当日には、札幌とその近郊にあるいくつかの大学がオープン・キャンパスを実施しており、昨年は九月に北東北三大学入試説明会を行ったのでした。札幌近郊の町の某大学では、参加者送迎のために無料バス数台をチャーターし、学食の無料試食や（メニューも五種類）、帰りにはその大学の入学試験問題集（いわゆる赤本）と記念品をプレゼントするという力入れようと報道されてい

た。テレビでは、北東北三大学説明会の映像も少し放映されましたが、いかにも地味な説明会の印象です。説明会の企画そのものには地味も派手もなく、昼食や赤本のプレゼントまで必要なのかは疑問に思いますが、入学試験については、以前のように待ちの姿勢では居られず、受験生確保のために戦略的であることが求められる時代になったことを更に印象付けられました。ニュースの最後に、キャスターは「最高学府として大学教育の質の確保にも努めるべきだ」という趣旨のコメントをしていましたが、社会が求めている「大学」は、綺麗な環境で楽しい学生生活を送ることができ、卒業後の就職を確保して大学に對して最高学府であるかどうかの評価は必ずしも問題でなくなつて来ていると感ぜられました。それを無条件で容認することに

九月に北東北三大学入試説明会を行ったのでした。札幌近郊の町の某大学では、参加者送迎のために無料バス数台をチャーターし、学食の無料試食や（メニューも五種類）、帰りにはその大学の入学試験問題集（いわゆる赤本）と記念品をプレゼントするという力入れようと報道されてい

た。テレビでは、北東北三大学説明会の映像も少し放映されましたが、いかにも地味な説明会の印象です。説明会の企画そのものには地味も派手もなく、昼食や赤本のプレゼントまで必要なのかは疑問に思いますが、入学試験については、以前のように待ちの姿勢では居られず、受験生確保のために戦略的であることが求められる時代になったことを更に印象付けられました。ニュースの最後に、キャスターは「最高学府として大学教育の質の確保にも努めるべきだ」という趣旨のコメントをしていましたが、社会が求めている「大学」は、綺麗な環境で楽しい学生生活を送ることができ、卒業後の就職を確保して大学に對して最高学府であるかどうかの評価は必ずしも問題でなくなつて来ていると感ぜられました。それを無条件で容認することに

いたことが決まりました。広報委員会担当の医学部ウォーカーならびに弘前大学医学部医学科・附属病院紹介冊子の発行、医学科公開講座（講演会）も例年助成を受けており、この場を借りて深謝いたします。なお、本年度の助成総額は二百九十九万円でした。

活動の評価基準などについての熱い議論に参加する機会が持てたことは、ほとんど受動的ではありませんが、貴重な経験であったと思っております。三年次学生編入を除いては、その時に確立された入学試験の大筋がこの約十年間にわたつて踏襲されて来ましたが、入学者の受け入れは大学の存在基盤そのものです。今また入学試験の在り方を本格的に考える時を迎えていることに、大学全体がある種の使命感を持って取り組んで行かなければならないと思っております。

社団法人青森医学振興会 平成16年度助成事業

- 事業の概要
(1) 社団法人青森医学振興会医学科実務委員会副委員長(附属病院長) 卒後臨床研修指導医の医学教育ワークショップ
(2) 学務委員会
学生課外活動援助 O S C E 経費(SP養成・謝金・旅費・意見交換会)
臨床講義棟講義室(大・小)音響設備他取付工事
臨床技能開発システム設置に伴う整備
「クリニカルワークショップ」実施に伴う実習宿泊費援助
解剖体に係る経費 医学部合宿所(鯉ヶ沢)の整備
(3) 広報委員会経費
弘前大学医学部医学科・附属病院紹介冊子発行
青森県内における弘前大学医学部「健康・医療講演会」
(4) 研究推進委員会
医学部学術賞に対する助成 メディカルイングリッシュセンター(MEC)助成
先進的研究推進のための助成 医学部学術賞に係るケース及びプレート代
(5) 地域医療対策委員会
1 地域医療振興事業
生涯教育後援会 継続看護に関する研究集会
家庭でできる看護ケア教室 臨床検査技術を対象とした「生涯教育講演会」
救急医学講座
2 地域医師確保
(6) 国際交流研究委員会
弘前国際医学フォーラム第8回学術集会 医学科学生と教員の海外派遣
(7) 附属図書館医学科分館
「Human Biology」第8版購入費 医学部分館士・日曜開館経費

合計 2,199万円

社団法人青森医学振興会 ニュース

医学部広報委員会委員長 花田 勝美

新任教授紹介

夢を持って弘前へ参りました

病理学第二講座教授 鬼島 宏



「弘前は、ねぶたと桜がすばらしく、とても良い街だよ」と、弘前出身の方々は口々に太鼓判をおされます。

それを聞いて、二〇〇四年八月一日付で弘前大学に採用となった私は、期待に胸ふくらませて病理学第二講座へ参りました。

一九五八年に東京で生まれてから一九七八年に大学に入学するまでは東京で過ごし、新潟大学入学から一九八八年に大学院を修了するまでの十年間は新潟を十分に堪能しました。新潟では、米と魚介類を中心とした美味しい料理の虜となり、スキーや登山を通して自然に触れるなど、「新潟人以上に新潟を楽しんでいるよ」と、よく友人より言われました。また、クラブ活動ではバドミントン部に所属し、練習に熱中し、六年生の時に東医体男子団体の準優勝を手にしました。バドミントンへの情熱は冷えることなく、現在に至っても新潟大学医学部バドミントン部のコーチを引き受け続けています。話が少々脱線いた

しますが、私が弘前大学に来ることが決まった今年五月十九日の直前の週末は、北日本医科系学生バドミントン大会（北医体）が新潟の主管で行われ、派遣医師を兼ねて応援に行っていました。その男子団体決勝の熱戦が新潟大と弘前大で行われたのは、私が弘前に来ることを後押ししてくれたように思います。

新潟大学大学院の四年間は、病理学第一、渡辺英伸教授（現、名誉教授）の指導の下、消化器癌の発生や進展の病理形態学的解析を行いました。学位論文は、ヒト胆嚢癌の発生・発育を解析した内容です。大学院修了後の一九八八年七月からは、諸先生方の厚意により神奈川県にある東海大学医学部病理学（現、病理診断学、玉置憲一教授、渡辺慶一教授）の助手となりました。ヒト腫瘍の進展と癌遺伝子変化との関連の研究を始め、多くのヒト腫瘍マウス移植株を用いてメタスタシス、転移のメカニズムを解析しました。東海大学には、二〇〇四年七月までの十六年間に在籍しました（長村義之教授、上山義人教授へと代が変わりました）。この間、一九九三年六月から一九九五年十二月までの二年半の間、米国カリフォルニア州、シテイ・オブ・ホルブ国立研究所の Dr. Kevin Scanlon の下に客員研究員として留学しました。機能性核酸（リボザイム、リボ酵素）を用いた遺伝子発現制御法の研究を行い、RNA 酵素により、癌細胞の癌遺伝子発現を特異的に抑制すると、癌細胞増殖が著明に抑制されることを解明いたしました。また、一九九六年四月からの一年間は、神奈川県内の大和市立病院に出向し、臨床検査科における病理部門の立ち上げ等を含めて、第一線の病院で病理診断を行いました。

このような略歴の中で、米国留学は私の人生にとって大きな意義となっていました。多くの先生方は米国で立派な業績をあげられますが、私の場合は、留学中には特筆すべき業績を残せませんでした。かなり頑張ったが残せなかったということと、ボスの Dr. Scanlon が評価してくれ、その後の二人の信頼関係が出来上がった気がします。データの關係で原著論文が滞る私に、総説を書くチャンスを与えてくれ、これが帰国後の論文作成のスキルアップにつながったと信じています。また、現在も学会等でボスに会うと熱烈歓迎をしてくれます。一方、生活面は百二十%の充実度でした。好天のロサンゼルス近郊に住み、週末はカリフォルニアに加え、アリゾナ、ネバダ、ユタなど近隣州に点在する国立公園や州立公園などを頻りに訪れました。在米二年目にはテントを購入して、公園内のキャンプ場に格安で滞在し、ビール片手にハイベキューを楽しめるまでに成長しました。おかげで、地元の肌が一日焼けして、スペイン語で話しかけられるほどでした。今もって、当時の在米生活が楽しかったと家族で話題にしています。

東海大学病理診断学での病理診断業務としては、関連病院からの依頼分を含めて、組織診・細胞診が各々年間四千件程度、術中迅速診断が年間八十件程度、病理解剖が年間十五件程度を、自らが行いました。質が高く、滞ることの無い診断で上記のような量を行うにはそれなりのエネルギーが必要ですが、この病理診断こそが、病理学に与えられた無二の業務と考えて頑張ってきました。これには、臨床医との情報交換も積極的に行い、診断向上を努めました。また、研究面での新しいあり方として、産学官連携を試みてきており、一九九七年十二月からは、通商産業省工業技術院、生命工学工業技術研究所の客員研究員（つくば市、現、独立行政法人 産業技術総合研究所、共同研究員）を併任しました。中央省庁行政改革により通商産業省は経済産業省となりましたが、地域活性化のために産学官連携を推進という方針は変わりないようですので、これに対して大学側も積極的にアプローチしてゆくことも、今後の研究を進展させるひとつの方策と考えます。

弘前大学も今年度より法人化され、その真の実力を示す時期が到来しました。常に大学の理念を念頭に置きながらも、夢を持って前進することが大切だと思います。後進を育成する「教育」、現時点で医療に貢献する「診療（病理診断）」、将来の応用を目指す「研究」、大学では三位一体であり、大学では三位一体でありたいと思います。

私が東北大学として秋田

ご挨拶

泌尿器科学講座教授 大山 力



このたび弘前大学医学部泌尿器科学講座を担当させていただきますことになりました。生まれは宮城県古川市で、昭和五十九年に本学を卒業して東北大学泌尿器科学教室に入局しました。その後十八年間東北大学および関連病院で泌尿器科の診療に従事し、平成十四年三月に秋田大学に移りました。卒業後二十一年目にあたる本年再び母校にお世話になることになりました。しばらくぶりですが、訪れた弘前は落ち着いた風情はそのままに、街は新しい顔も増えており、ここ弘前で診療と後輩の方々のお世話、そして研究をさせて頂くことに大きな喜びと明るい希望を抱いております。

私は昭和五十三年に本学に入学し、六年間の学生生活を送りましたが、特に大学の主役である学生に対してしっかりと教育を行うことは、大学・社会の大きな推進力になることだと思います。多くの方々と協力し合いながら、魅力ある、より良き大学作りを携わる所存です。どうかよろしくお願いたします。

活を楽しく有意義におくることができました。学生時代はラグビーに熱中し生傷の絶えない学生ではありましたが、講義や臨床実習の中で拝聴した恩師の先生方の示唆に富む言葉は、医者として働いていくなかで非常に有用でありたいものでした。医学生としてレベルの高い教育を受けたことを強く自覚しており、恩師の先生方にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

本学卒業後は東北地方の二つの教室に所属しましたので、短期勤務も含めると勤務経験のある病院は東北六県および新潟県、栃木県、茨城県に及びます。青森県では八戸市と和田市での診療経験があります。私自身、二十一年間の診療経験の中で培った泌尿器科診療ネットワークは、泌尿器科医の交流、泌尿器科卒後教育プログラム、効率の良い患者さん紹介システムの構築などを通して青森県の泌尿器科診療に多少お役に立てるのではないかと期待しております。私は泌尿器科全般にわたる疾患を診療いたしますが、なかでも東北大学在職中は尿路悪性腫瘍の診療を専門とし、秋田大学ではさらに腹腔鏡手術と腎移植の経験を積みました。弘前大学泌尿器科においては、これまでの診療経験をいかしてレベルの高い医療を実現して地域医療に貢献していきたいと思っております。私は東北大学として秋田

糖鎖研究のひとつの拠点となつていきます。私は Seattle の箱守教授、留学先である J. L. J. (San Diego) の福田教授と共同研究を進めております。本学における糖鎖研究においても多少お役に立てるのではないかと考えております。

さて、東北、北海道地方における医師不足はますます深刻になっております。臨床研修必修化に伴って、われわれ泌尿器科にはいわゆるストリート入局の道はなくなりまして、いかにして若くて有能な医師を育てるか？まずは、本学出身者を多数引き止めるだけの魅力ある研修病院、研修システムを整備する必要があります。さらにその二年後には医師として成長するための後期研修、学位取得、各科専門医資格取得というステップが控えており、そのためには従来のように大学院への入学や講座に所属することが必要になります。我々指導者には、世界トップレベルの研究を実践することで外部資金獲得を目指す、その研究能力を若手研究者育成に生かしていくことが要求されます。地域に根ざした親身の診療、そして世界標準のレベルの高い診療と研究を実践していけば、その姿勢は学生の脳裏に強く焼きつきます。臨床研修の後には多くの若い医師が集まってもらえるように、学生時代の教育、指導に力を入れていくつもりです。

さて、現在弘前大泌尿器科の最大の問題点は教室員数が非常に少ないことです。ひとを増やすことから地道に一歩ずつ歩んでいきたいと思っております。何卒宜しくお願申し上げます。

弘前医学会総会

— 黒石市で開催 —

弘前医学会(前)庶務幹事 木村 博人

第八十八回弘前医学会総会は、平成十六年六月十九日(土)黒石市松安閣に於いて工藤隆士南黒医師会長を総会長として開催された。本総会は弘前医学会と南黒医師会の共催であるが、開催準備と学会の運営には盛庸先生を始めとする南黒医師会の先生方の全面的な御協力を頂いたことに改めて感謝申し上げたい。

代があり、新会計幹事として須田俊宏(弘前大)、本田忠(八戸市医師会)、新集會幹事として高木伸也(八戸市医師会)、新監事として川部汎康(むつ下北医師会)、平賀侑子(八戸市医師会)の各先生が就任することになった。

総会に先立ち、弘前医学会評議員会が学内評議員十三名、学外評議員十名の出席の下に開催された。評議員会・総会では、兼子直医学科長(弘前医学会長)に代り泉井 亮副医学科長と工藤総会長から挨拶があり議事に移った。主な議事内容は例年通りの事業報告と収支決算・予算案等の審議であったが、この中で、次年度はむつ下北医師会のお世話で平成十七年六月十一日(土)、十二日(日)の両日、むつ市に於いて開催されること、次年度は八戸市医師会が担当することなどが了承された。これに伴い平成十六年度役員交代



棟方昭博教授の特別講演

図書館だより

附属図書館医学部分館長 正村 和彦

青森医学振興会の助力により、本年八月一日(日)から日曜日有人開館ができるようになりました。これで、土曜・日曜の有人開館(午前10時～午後5時)が達成でき

ました。これにより週末も、教職員、学生、一般市民の方々の利用が可能で、特に一般市民の方々の利用を促進し、市民の医学図書館を目指したいと考えています。

受賞のことば

弘前大学医学部附属病院 放射線部 青木 昌彦

弘前医学会総会において思いがけず優秀発表賞という栄誉ある賞を受賞し、たいへん光栄に存じます。今回、私が発表した「放射線治療を行った早期乳癌に対する乳房温存療法の治療成績」は、当院で放射線治療を行った過去十二年にわたる乳房温存療法の治療成績をまとめたものですが、これには、乳癌外科に携わる数多くの外科医の先生方や病理の先生方、そして放射線治療に携わる診療放射線技師らが深く関与しており、日頃の診療の成果が評価されたものと思っております。この場をお借りして、関係者の皆様に感謝の意を表します。

とここで、乳房温存療法は今や早期乳癌に対する標準治療となっておりますが、一昔前までは、乳房切断術が一般的治療でした。乳房を全部取らなくても、術後に放射線治療を加えれば、乳房切断術と比較し治療成績は全く変わりがありません。一九九〇年代に明らかとなり、その後は乳房温存療法が急速に普及し現在に至っています。乳房を失った場合、患者さんにとつてのショックは計り知れないものがありますが、乳房を温存できることは、患者さんにとつては大きな救いです。放射線治療も、治療計画用コンピュータの進化や最新型直線加速器の導入により十年前とは大きく様変わりし、個々の患者さんに応じた最適な照射が可能となっております。心配される副作用もほとんどないことから、通院で治療を受ける患者さんも多く、最近では放射線科の外來が乳房温存の患者さんで溢れかえることもしばしばあります。

しかし、残念なことに、ここ最近、放射線の過剰・過少照射事故が全国各地で頻発し、放射線治療の関係者にとつては、まさに冬の時代といつても過言ではない状況となっております。その原因として、放射線治療機器の高度化に対応できる専門職の不足、照射患者数の急速に増加にマンパワーの補充が追いつかない、放射線治療専門医の不足など、様々な要因が考えられます。当院の放射線治療部門でも、マンパワーは十分とは言えないものの、その分スタッフ一同が身を粉にして



優秀発表賞表彰式にて

がんばっております。幸いなことにその様な事故は今のところないのが、せめてもの救いです。その結果、当院で放射線治療を行った乳房温存療法後の局所再発率は一・四%と極めて低く、重篤な副作用はありませんでしたが、決してこれで良いという訳ではありません。現時点では、乳房温存術後の照射を省略できるケースが分からず、全例照射が必要であると考えていますが、今後、照射が要らないケースを明らかにしなければなりません。放射線治療に関して言えば、乳房温存療法に限らず、今後も最適な放射線治療が行われていくように、医療安全管理や治療機器の品質管理・品質保証を徹底していく必要があります。今回、この様な賞を受賞したことは、たいへん嬉しく私にとつて大いに励みとなりますが、ここはぐっとこらえて、また、気を引き締めていこうと思えます。最後になりましたが、今回、発表する機会を与えて頂いた弘前医学会関係者の皆様と、発表することを勧め下さった当教室の阿部教授に深謝し、受賞のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

優秀論文賞を受賞して

青森県立中央病院 腫瘍放射線科臨床検査部 真里谷 靖

この度は、栄えある第一回優秀論文賞をいただき、大変光栄に存じます。私の主な専門分野は放射線治療なのですが、昨年のいわゆる国立弘前病院・過剰照射問題以来、放射線治療は「冬の時代」に入っているといつても過言ではありません。その様な中で、敢えて放射線治療の論文に学会賞を与えてくださった弘前医学会の方々に、感謝の念と共に大いなる敬意を表したいと存じます。

た、現在の東北地方のなかで、弘前大学、県立中央病院と日本放射線腫瘍学会認定施設を二ヶ所所有しているのは我が青森県だけです。今回の受賞論文は、定位的放射線治療(Stereotactic Radiotherapy: SRT)という高度の精度管理が必要な治療法を扱っていますが、

最近の一連の報道からどうしてもマイナスのイメージをもって見られがちな放射線治療ですが、後輩の弘前大学放射線科・青木昌彦先生の優秀発表賞受賞も併せ、今回の学会賞がいずれも放射線治療分野から選ばれたことで、そのイメージがわずかも払拭されることを期待しています。最後に、今回の受賞をご決定くださった弘前医学会の皆様、ならびに我々腫瘍放射線科医の仕事を支えてくれている当院パラメディカル・スタッフ一同に、改めて心からの感謝を述べたいと存じます。



放射線科のダブル受賞を喜ぶ

右から真里谷氏、阿部教授、青木氏の三人

最近の最新の放射線診断技術、綿密な治療計画と線量計算、高い精度を要求される治療設備と照射技術などの集合体であり、これを支える診療放射線技師などパラメディカル・スタッフの地道な努力も併せてはじめて実行可能となること、論文の内容からもご理解いただけたと思います。対象となった聴神経腫瘍に関する我々の治療成績は、実際にはまだまだ満足すべきものではなく、時間的線量配分などに放射線生物学的見地から工夫の余地もありません。しかし、non-invasiveで副障害も殆ど無いSRTによつて、少なくとも比較的小さく(平均直径2cm強程度まで)Solid componentが主体の聴神経腫瘍であれば高率の臨床的制御が期待できることを、県内あるいは近隣の施設の諸先生方に広く知っていただきたいと願っております。

研究室紹介

寄生虫学講座

教授 神谷晴夫

一九六六年に創設された寄生虫学講座は、現在、教員三人、技術系職員一名で構成されている。部屋は基礎研究棟の最上階にあり、今年のような猛暑の時には、太陽に近いせい、階段を登るにつれて、地球温暖化を実感し、太陽に焼かれ墜落したイカロスの気分になつてくる。しかし、その廊下には、前任の山口富雄名誉教授が心血を注いで作成された寄生虫標本棚が整備され、「寄生虫」の存在を強く実感させてくれ、寄生虫が過去の遺物ではなく、「ongoing」の疾患であること語りかけている。

寄生虫学の現状

国内の寄生虫学は復活しつつあるといつてしまえば、我田引水であると捉えられず、昨今の感染症の復活、新興・再興感染症の顕在化はその一端を示している。また、一方では年間約二千万人のヒトが出入国を繰り返してあり、輸入産物も夥しく増加し、それらを介して、寄生虫は分布拡大のチャンスを得ている。加えて、地球温暖化やオゾン層の破壊等、地球環境の激しい変化が関係した感染症の増加は、既にコントロールが困難なところまで達しているのではないかと危惧さえ抱かせられている。このように、状況の中で、私達の教室でも、国際的に重要な寄生虫の住血吸虫症等の感染防御機序の解析を精力的に行っている一方、エキノコックスの北海道から本州への拡散防止の監視体制確立、日本顎口虫症の流行疫学調査・診断・治療に関する研究、動物由来寄生虫の流行疫学調査

寄生虫学講座の研究課題

二十数年の教室での、研究対象の寄生虫種は、エキノコックス、住血吸虫、旋毛虫、各種回虫、トリパノソーマ等であり、国際的にも重要な人獣共通寄生虫である。

一、エキノコックス症

エキノコックス症の本州への流行拡大監視体制の確立・現在、エキノコックス(多包虫)症は、国内に於いて最も深刻な寄生虫症で、北海道で激しく流行している。ところが、流行地の北海道から時空的に最前線に位置している青森県の肥育ブタでの感染を、一九九九年に報告し、公衆衛生学的に、また農畜産上からも深刻な問題を提起した。このような事態から、エキノコックス症はいわゆる感染症新法で、第四類感染症に分類され、全例報告が課せられることとなった。また、本県からは今まで二十四人の患者が報告され、北海道に次ぐ患者発生率であり、そのうちの九人は県内で感染したと考えられている。

二、住血吸虫症

本症は世界的に二億五千万人の患者の存在が推測され、WHOがその防除に力を注いでいる寄生虫症である。わが国では日本住血吸虫症が猛威を振るっていたが、先人の努力で撲滅に成功した。本症に関しては、免疫病理学的・分子生物学的なアプローチから次のような研究を行っている。

三、外来動物がもたらす感染症の国際化

アライグマ回虫症・人気アニメ、アライグマ・ラスカルにあまり多数のアライグマが輸入され、それらは既に多くの都道府県で野生化し、定着している。

四、旋毛虫症

旋毛虫症は、私達の教室にとっては歴史的なものである。従来、国内のイヌからのみ見つかっていた本症が、一九七四年青森県岩崎村で、ツキノワグマの肉を生食した十五名の感染者の集団発生として見つかつたからである。その後、日本各地で患者の発生が続き、

五、原虫症

シャーガス病のモルモット・モデルを開発して、その感染防御機序における樹状細胞の係わりに関する研究論文は、寄生虫学関係の国際誌である、イギリスの「Parasitology」に掲載され、その樹状細胞が抗原提示細胞としての役割を明瞭に示している電顕写真がその雑誌の表紙を飾つた。

六、寄生虫動物モデルの作出

寄生虫はその宿主特異性から、好適な感染動物モデルが欠如していることが多く、各種の寄生虫に対する宿主動物モデルを開発してきた。この研究は、それぞれの研究項目と密接に関連するが、やはり発展性のある



写真2: バングラデシュよりの留学生家族を囲んで

教室の大きな業績として評価されている。その後、山口富雄前教授の退官に伴い、研究の主体は前述の寄生虫学にシフトしていったが、本症の実験的研究は継続して行われていた。心筋炎や脳傷害への幼虫の関与等、免疫病理学的領域の仕事が発展した。特に大きく進展したのは、紫外線照射弱毒化筋肉幼虫の感染によって、それ自身は成虫にはならぬが、宿主に強い再感染防御が誘導されることが明らかになったからである。このことは、消化管における線虫感染に対する感染防御免疫誘導の可能性を示唆するもので、「Gy」がその機序に関与していることが明らかにした。

このように我々の教室では、分類学・形態学を基にして、免疫病理学、分子生物学、実験動物学、生態疫学等広い分野からの総合的アプローチを行っており、「より広くより深く、寄生虫の心になつて！」をモットーに研究を行っている。

地域社会貢献
地域社会貢献が要求され、重要な評価対象となつた。寄生虫学講座のこの方面での貢献は決して少なくない。現実的には、各種寄生虫検査依頼やそのコンサルテーションが頻繁にある。現在、東北地方の寄生虫学関係医学教育・研究機関は、我々の教室だけである。県内はもとよりのこと、東北一円からの検査依頼は、年間平均五十〜六十件ののぼり、これに要する人手・時間も決して少なくない。しかし、そこから今まで報告のない寄生虫症が見つかる。国内での寄生虫症の検出例数から考えれば、多分に国内で上位の機関に入るのには間違いなく、地域・地方の要求に対応し得ていると考えている。その他、行政と連携して、寄生虫症(エキノコックス症)の流行監視体制の確立のために、野生動物の感染疫学調査を実施したり、教育用CD-ROM(写真1)を作成し、広く関係検査機関に配布し、高い評価を受けている。

国際共同研究の実施
「世界に発信し、地域と共に創造する」が国立大学法人弘前大学の目標である。従って、国際共同研究はまたその成果が問われることになる。我々の教室では、ベネズエラ、バングラデッシュ、エジプト、ウルグアイ、中国、イスラエル、イギリス、国際機関のWHOとの共同研究の推進、JICA等の医療協力への参加など、多岐にわたっている。それらの国から、相互に研究者や大学院生を受け入れたり、こちらから派遣したりと、共同研究が進んでいる(写真2)。

輸入菌類の寄生虫学 Euposoa 亜属に分類されるトリパノソーマの分子分類学的研究も進展している。寄生虫を指標として、野生菌類の進化・分散の解析が可能になるのではと考えられている。

寄生虫はその宿主特異性から、好適な感染動物モデルが欠如していることが多く、各種の寄生虫に対する宿主動物モデルを開発してきた。この研究は、それぞれの研究項目と密接に関連するが、やはり発展性のある

このように我々の教室では、分類学・形態学を基にして、免疫病理学、分子生物学、実験動物学、生態疫学等広い分野からの総合的アプローチを行っており、「より広くより深く、寄生虫の心になつて！」をモットーに研究を行っている。

地域社会貢献
地域社会貢献が要求され、重要な評価対象となつた。寄生虫学講座のこの方面での貢献は決して少なくない。現実的には、各種寄生虫検査依頼やそのコンサルテーションが頻繁にある。現在、東北地方の寄生虫学関係医学教育・研究機関は、我々の教室だけである。県内はもとよりのこと、東北一円からの検査依頼は、年間平均五十〜六十件ののぼり、これに要する人手・時間も決して少なくない。しかし、そこから今まで報告のない寄生虫症が見つかる。国内での寄生虫症の検出例数から考えれば、多分に国内で上位の機関に入るのには間違いなく、地域・地方の要求に対応し得ている。その他、行政と連携して、寄生虫症(エキノコックス症)の流行監視体制の確立のために、野生動物の感染疫学調査を実施したり、教育用CD-ROM(写真1)を作成し、広く関係検査機関に配布し、高い評価を受けている。

国際共同研究の実施
「世界に発信し、地域と共に創造する」が国立大学法人弘前大学の目標である。従って、国際共同研究はまたその成果が問われることになる。我々の教室では、ベネズエラ、バングラデッシュ、エジプト、ウルグアイ、中国、イスラエル、イギリス、国際機関のWHOとの共同研究の推進、JICA等の医療協力への参加など、多岐にわたっている。それらの国から、相互に研究者や大学院生を受け入れたり、こちらから派遣したりと、共同研究が進んでいる(写真2)。

「戦わなければ、生きていけないならば、寄生虫を食っている……です」と代えなければと思つている。とにかく、「寄生虫」を取り巻く環境も、以前のようには、何となく「寄生虫学的」ではやってゆけなくなつてきているようにも感じているが、この競争市場原理の時代に、生き残るひとつの道は寄生虫の気持ちになり、奪い合い(競争)ではなく、寄生的共生(遠慮がちな競争的協力)をすることではな



写真1: 全国の関係機関に配布したエキノコックス感染調査・監視用教育CD-ROM

など、地域と密着した研究も進展している。

このように、状況の中で、私達の教室でも、国際的に重要な寄生虫の住血吸虫症等の感染防御機序の解析を精力的に行っている一方、エキノコックスの北海道から本州への拡散防止の監視体制確立、日本顎口虫症の流行疫学調査・診断・治療に関する研究、動物由来寄生虫の流行疫学調査

このアライグマに寄生する回虫は、深刻な幼虫移行症を呈し、幼児の視力障害の中心的研究テーマであり、地域と世界を結びつける研究につながっている。

シャーガス病のモルモット・モデルを開発して、その感染防御機序における樹状細胞の係わりに関する研究論文は、寄生虫学関係の国際誌である、イギリスの「Parasitology」に掲載され、その樹状細胞が抗原提示細胞としての役割を明瞭に示している電顕写真がその雑誌の表紙を飾つた。

寄生虫はその宿主特異性から、好適な感染動物モデルが欠如していることが多く、各種の寄生虫に対する宿主動物モデルを開発してきた。この研究は、それぞれの研究項目と密接に関連するが、やはり発展性のある

このように我々の教室では、分類学・形態学を基にして、免疫病理学、分子生物学、実験動物学、生態疫学等広い分野からの総合的アプローチを行っており、「より広くより深く、寄生虫の心になつて！」をモットーに研究を行っている。

地域社会貢献
地域社会貢献が要求され、重要な評価対象となつた。寄生虫学講座のこの方面での貢献は決して少なくない。現実的には、各種寄生虫検査依頼やそのコンサルテーションが頻繁にある。現在、東北地方の寄生虫学関係医学教育・研究機関は、我々の教室だけである。県内はもとよりのこと、東北一円からの検査依頼は、年間平均五十〜六十件ののぼり、これに要する人手・時間も決して少なくない。しかし、そこから今まで報告のない寄生虫症が見つかる。国内での寄生虫症の検出例数から考えれば、多分に国内で上位の機関に入るのには間違いなく、地域・地方の要求に対応し得ている。その他、行政と連携して、寄生虫症(エキノコックス症)の流行監視体制の確立のために、野生動物の感染疫学調査を実施したり、教育用CD-ROM(写真1)を作成し、広く関係検査機関に配布し、高い評価を受けている。

OSCE / CBT情報

総合診療部教授 加藤 博之



(一) OSCE / CBTとは何か?

OSCE (Objective Structured Clinical Examination: 客観的臨床能力試験) と CBT (Computer Based Testing) とは、臨床実習開始前の医学生が医療チームの一員として診療に参加する診療参加型の臨床実習を行うために必要な知識、技能、態度が備わっているかについて、全国の医学部・医科大学が一律の基準で評価を行うものである。CBTでは主に知識(および問題解決能力)を、OSCEでは主に技能・態度をみよとされている。最近の医学教育改革の大きな流れの根底には、わが国の医学生は基本的な臨床能力が十分に身につけていないことが問題点として認識されており、コア・カリキュラムの導入と相まってOSCE / CBTが導入されるに至った。OSCE / CBTは全国の医学部・医科大学による共同事業であるが、その管理を具体的に実行しているのは共用試験実施機構という組織であり、共用試験実施委員会、共用試験事後評価委員会、専門部会から成っている。これはさらにCBTとOSCEの小委員会にそれぞれ分かれ

ており、参加全大学から少なくとも一名が、CBTまたはOSCEのどちらか一方の小委員会委員として参加するように選出されている。本学からは筆者が医学系CBT試験実施小委員会委員を務めている。なお共用試験実施機構は法人化すべく現在手続き中であり、平成十七年度の法人組織発足を目指している。現在まで共用試験実施機構の活動資金は、文部科学省からの交付金と各大学医学部・医科大学からの分担金によって賄われていたが、法人化すれば法人組織の維持に必要な経費(管理運営経費)と共用試験を一回実施する毎にかかる経費(事業経費)は全て各大学医学部・医科大学からの分担金によることになり、各校の負担が増えることは避けられそうにない。

(二) OSCE / CBTの進行状況

平成十三年にいわゆるモデル・コア・カリキュラムが提示されたあと、これを出題範囲とするCBTのトライアルが行われ、第一回トライアルが平成十四年二月(九月(七十七校参加)、第二回トライアルが平成十五年一月(五月(八十校参加))に実施された。第三回トライアルは二期に分かれ、平成十五年十二月(平成十六年三月(六十八校参加))と平成十六年六月(平成十六年九月(現在進行中。本学は七月十六日に現五年生に実施))となつている。今後

最終トライアルが同様に二期に分かれ平成十六年十二月(平成十七年三月(本学は平成十七年三月に現四年生に実施予定))と平成十七年六月(平成十七年九月に行われる予定となつている。本学では平成十八年一月十三日には現三年生に対してCBTが正式実施される予定である。既に実施されたトライアルについては結果集計と問題の吟味が行われ、問題がほぼ妥当であることが確認されていると同時に受当な問題をプールしている。本年度も新たな問題が公募され更にプールされる予定であり最終的に一万題を超える問題がプールされることとなる)。出題様式・出題数・時間としては、五肢択一形式二百四十題(約四時間)、二連問形式四十題(約一時間)、四連問形式四十題(約一時間)の計三百二十問、延べ六時間に及ぶ試験である。

OSCE

平成十三年から十四年にかけて第一回トライアルを実施(参加十二校)、平成十四年から十五年にかけて第二回トライアルを実施(参加五十九校)し、このときにOSCEのテキストに相当する「診療参加型臨床実習に参加する学生に必要なとされる技能と態度に関する学習・評価項目」が作成された。平成十五年から十六年にかけて第三回トライアルを実施(参加八十校)し、このときに共通課題、共通

加藤 博之

評価表、共通評価マニュアルの作成が行われた。平成十六年から十七年にかけて最終トライアルが実施されることになっており、本学では現五年生に対して本年九月四日に、現四年生に対して平成十七年四月三十日に最終トライアルを実施する予定である。平成十八年二月十一日には現三年生に対してOSCEが正式実施される予定である。OSCEは医療面接、頭頸部診察、胸部診察、腹部診察、神経診察、心臓蘇生または外科手技の六つのテーマについて、ステーションと呼ばれる模擬診察室で、模擬患者(Simulated PatientまたはStandardized Patient 以下SP)、各種シミュレーターなどを使って面接、診察、手技を医学生が行い、これを教員が評価するものである。その成績は共用試験実施機構に送付されるが、最終的な成績判定は各大学で行うことになっている。昨年までは、本学は本学独自のテーマ、内容、評価項目で行ってきたが、九月四日実施のOSCEでは共用試験実施機構の作成した共通課題を用いることになった。また従来秋田大学、岩手医科大学との間で評価者の相互乗り入れをしていたが、本年からは相手校を固定せず、(おそらく東北ブロックの)どこかの大学から教員が来学することになる。また評価者の目を一定にするために、本年度から共用試験実施機構による評価者講習会が開催される。東京、大阪、福岡で順次同内容のものが開催され、各校から六名(六つのステーションに相当)の教官に受講してもらい評価技能を磨いてもらうことになる。来年度以降もこの講習会は継続的に開催される予定で、今後はこの講習会の受講経験者でない他校に外部評価者として派遣してはならないことになる。

(三) OSCEは国家試験に導入されるのか

数年前からOSCEを医師国家試験に導入する可能性が検討されており、厚生労働科学研究の「国家試験OSCEトライアルの実施に係る研究」研究班により、Advanced OSCEと呼ばれるトライアルが続けられている。臨床実習を開始する際の学生に対するOSCEが「医療面接」、「胸部診察」など極めて限定されたテーマについて基本的な「お作法」を見ているのに対し、Advanced OSCEでは、例えば「呼吸困難を主訴に来院した男性」という状況設定で、SPとシミュレーターを組合せ、必要な医療面接と診察を三段階に分けて行わせるなどの応用力を試す課題が示され、より実際の診療に近い内容になっている。本年三月七日に久留米市で行われた最近のトライアルでは、咽頭痛、呼吸困難、小児のけいれん、外科的手技、腹痛、動悸、禁煙支援、緊急性の高い動悸・心停止の八種類の課題を用い、四〜六年次のボランティア学生を被験者としてトライアルが行われた。もちろん、このようなスタイルのOSCEを国家試験に導入するかどうかについては、まだ結論が得られていない。仮に導入する場合は、当初は平成十七年度導入を目指したよつであるが、時間的に無理があるため次期国家試験改定期である平成二十一年度の導入を目指すことになるらしい。また

加藤 博之

が、本来CBTもOSCEも評価の一つの方法にすぎず、実はそこに至るまでどのよう教育を行ってきたかの方がはるかに重要である。CBTはそれまでの四年間(または四年半)の系統講義の集大成を評価するものと言えるが、一方のOSCEは臨床実習開始直前に行われる教育(いわゆる「臨床入門」)の成果を評価するものである。本学ではPre SGTがそれに相当する。本学の場合、昨年度までのPre SGTでは学生を小グループに分け、各科に派遣して各科の裁量で教育するシステムを取っていた。このため同じ手技であっても教える教員によって内容にバラツキが生じ、このことはOSCE外部評価者からも指摘を受けていた。そこでこのような弊害をなくすため、本年度のPre SGTはカリキュラムの大幅な変更を行った。まずPre SGTをあたかも一つの科目であるかのように捉え、これ

(四) 本学の現状と新しい動き あらためて問われるPre SGTの意義

さて今までCBTとOSCEの話ばかりを述べてきたが、本年度から実施される新しいPre SGT

本年度から実施される新しいPre SGT

GIO (General Instructional Objectives: 一般学習目標)

臨床実習(SGT)を円滑に履修するための準備として、患者さんへのコミュニケーションの技法、基本的な身体診察術、安全管理の基本を修得する。また医師の思考過程を意識しながら自ら学ぶ姿勢を習慣づけ、医師としてのプロフェッショナリズムの涵養を図る。

SBO (Specific Behavioral Objectives: 個別学習目標)

1. 患者・医師関係を重視した医療面接を行うことができる
2. 身体各部位についての基本的な診察を行うことができる
3. 心肺停止状態に対して一次救命処置(Basic Life Support)を実施することができる
4. 基本的な外科縫合手技を行うことができる
5. 臨床実習中の安全管理の重要性を認識し、医療事故防止や院内感染防止に配慮することができる
6. 主訴から診断にいたる医師の思考過程を理解し、症候学的重要性に気付き、自ら学習を進めてゆくことができる
7. 典型例についてPOS形式でカルテを記載することができる

講義・実習項目(方略)

1. 患者さんと向き合うためのこころ構え(講義)
2. ワークショップ「How to survive SGT?」
3. スキルズラボ入門(実習シミュレーター イチロー、Mr.Lung)
4. 症候学について(講義)
5. 医療面接(講義)
6. 医療面接(実習 ビデオ)
7. 医療面接(実習 ロールプレイ)
8. 医療面接(実習 SP)
9. 頭頸部診察、胸部診察、腹部診察、神経診察(講義)
10. 頭頸部診察、胸部診察、腹部診察、神経診察(ビデオ)
11. 頭頸部診察、胸部診察、腹部診察、神経診察(実習)
12. 心肺蘇生(講義)
13. 心肺蘇生(実習)
14. 外科手技(講義)
15. 外科手技(実習)
16. 実習中の安全管理、医療事故防止(講義)
17. 実習中の院内感染対策(講義)
18. SGTで小児科患者に接するにあたって(講義)
19. SGTで産婦人科患者に接するにあたって(講義)
20. 診断のプロセスとカルテ作成実習(講義と実習)
21. 共用試験OSCEの手順について(講義)
22. 院内オリエンテーション(講義)

ら達成するための方略を設定した(本年度から実施される新しいPre SGT参照)。具体的には、講義、実習(ロールプレイ、シミュレーター、SPを含む)などからなるが、教える内容にバラツキが生じないよう、言い換えると複数科で分担している担当教員が共通認識を作るために、事前に同じ教材、ビデオを用いて綿密な打合せを繰り返した。学生は三週間にわたり朝から夕方まで拘束され、全体で講義を受けるほか、小グループに分かれビデオ学習、実習、自習を繰り返し、六つのステーションに相当する内容を身につける。またそれだけではなくワークショップ「How to survive SGT?」、「症候学演習」、「診断のプロセスとカルテ作成実習」などにより、医師の思考過程を体験し、医師としてのプロフェッショナルリズムの涵養を図るように科目全体がアレンジされている。今回のPre SGT改革が単なるOSCE対策にとどまらず、SGTを迎え入れる各科の教員各位が、昨年までの教育との違いを少しでも実感して頂けるものになれば幸いである。

「本年度新入生情報」 —今年の一年生は—

医学部医学科学務委員長 泉 井 亮

(生理学第一講座教授)

本年度の新入生は百二名(一年次入学八十二名、三年次入学二十名)です。新一年生の医学部医学科との付き合いは、新入生歓迎会(入学式当日)に遅刻した学生に対する学部長からの叱責からはじまりました。何とも不幸な始まりでした。その翌日、新一年生に対するガイダンスでも、また遅刻した学生がありました。ここでもまた学部長からの叱責がありました。

めに、現代のフェロモン女優・井上和香を取り上げ、そのフェロモン性について検証し、解説しました。議論も盛り上がりました。井上和香が分泌するフェロモンは何か。テレビで見ても「ググッ」とくるけど、「フェロモン」は電波に乗って輸送されるものなのか、等々。これが「内分泌」といいます。確かにそうともいえませんが、その議論の真剣さ、これはすばらしい。これなら、きつと彼らは日本の医学・医療の将来を担ってくれる人材に成長するのではないかと、私も期待させます。私は、テレビで彼女が「プ・ロ・ミス」というたびに、この議論を思い出して、学生達の輝かしい将来を空想しています。

弘前大学学部説明会

医学科入試専門委員長 佐藤 敬

(脳研脳血管病態部門教授)

八月九日(月)、十日(火)の両日、弘前大学学部説明会が開催され、医学科においても九日午後一時から四時まで実施された。今年度の参加者は学生、教員、父兄等を含めた総数で百五十名を数え、昨年より約五十人増であった。最も多かったのは三本木高校からの五十四名で、県外からも十八名の参加があった。最も遠くからの参加者は千葉県からで、父兄と一緒にドライブ旅行を兼ねての参加だった。

八月九日(月)、十日(火)の両日、弘前大学学部説明会が開催され、医学科においても九日午後一時から四時まで実施された。今年度の参加者は学生、教員、父兄等を含めた総数で百五十名を数え、昨年より約五十人増であった。最も多かったのは三本木高校からの五十四名で、県外からも十八名の参加があった。最も遠くからの参加者は千葉県からで、父兄と一緒にドライブ旅行を兼ねての参加だった。

「Human Biology」というテキストをすべて読破、理解させようというもので、基本的に自ら学ぶものです。基礎系講座・部門を四分野に分けて、それぞれに学生を配属させ、これをローテーションします。私は第二分野に属しており、この分野ではおよそ二十名の学生をさらに五グループに分けて、決められた箇所を学びます。最後に、それぞれのグループが勉強した成果を発表します。

学生寮などの学生生活、本学における主な研究課題、医師に相応しい人格など幅広い質問が活発になされた。この説明会に関する感想や希望のアンケートでは、参加者全員から高い評価を頂いたと思われる。特に、模擬講義と見学はいずれも評価が高かった。模擬講義は「長嶋監督の脳ではどのようなことが起こったのか?」という疑問から出発して脳卒中についてわかりやすく解説して頂いた。また、手術ビデオはほとんどの参加者に印象深く観てもらったことのでき、薬剤部見学は、薬学部を考えている参加者が多いことから有益であった。

この発表と学生からの質問が、今年はなかなか面白いのです。こんなことがありました。「内分泌」を担当したグループの発表で、「フェロモン」をわかりやすく説明するた

どのように結びつくのか、という素朴な疑問は別にして、説明や議論は見ごたえ、聞きごたえのあるものでした。なんとも、ばかばかしいといえませんが、確かにそうとも言えます。しかし、その議論の真剣さ、これはすばらしい。これなら、きつと彼らは日本の医学・医療の将来を担ってくれる人材に成長するのではないかと、私も期待させます。私は、テレビで彼女が「プ・ロ・ミス」というたびに、この議論を思い出して、学生達の輝かしい将来を空想しています。

第四十七回 東医体結果速報

東医体理事 佐藤 敬

敬(脳研脳血管病態部門教授)

第四十七回東日本医科学生総合体育大会の全日程が終了し、弘前大学医学部の選手は今年も立派な成果を挙げた。今年も旭川医大、北大、札幌医大とともに本学も主管グループに入っており、弘前大学の担当は、テニス、剣道、卓球の三種目であった。

もに円盤投げでも三位入賞。同じく陸上では八〇〇mの多和田有紀君が二位、一〇mハードルの野村亜南君が三位であった。空手では組手の三島弘之君と、型の小渡亮介君が優勝、柔道では佐々木英嗣君が重量級優勝、井上亮君が軽重量級二位、女子卓球ダブルス築詰雪映君、石木愛子君の組が二位、女子剣道の篠田千穂君も二位であった。

弘前大学医学部の活躍は今年も目覚ましいものがあり、現在判明しているものだけで、ラグビー、剣道男子、空手男子総合と型団体で弘前大学医学部が優勝した。ラグビー部は決勝で慈恵医大を十四対〇で破つて六連覇を達成、空手男子は四年連続、剣道部は十八年振り二度目の優勝を遂げた。この他、女子テニス部は二位、準硬式野球は三位であった。

個人成績としては、陸上の古郡菜里子君が走り幅跳びと砲丸投げで優勝すると



東医体6連覇を遂げたラグビー部

北医体優勝報告

弓道部二年 富田 哲

去る六月二十六日、福島県郡山市で行われた北医体弓道競技で、我々弘前大学医学部弓道部は団体優勝をはじめ、女子団体優勝、男子個人一位および新人賞、女子個人五位入賞と、満足のいく結果を残すことができました。団体戦のメンバー全員が、二週連続の遠征の疲れの中、堂々とした射

をした結果でした。また通常練習に参加できない先輩方も、忙しいながらも暇を見つけて練習した上で試合に臨み、他校にその技を見せ付けることができました。東医体は八月に札幌市で行われます。北医体優勝の勢いをそのままに、東医体でも良い結果を残せるように頑張ります。

今年もまた基礎各チーム参加によるソフトボール大会が五月末より七月上旬の約一ヶ月半に亘って開催されました。本大会は例年各講座、施設部門、事務、図書館の皆様の参加にて盛大に行われて参りましたが、プロ野球チームの減少と足並みを揃え、今回のソフトボール大会も参加チーム数が減少してしまいました。しかしながらチーム数が少なくなるとはいえ、各試合ではやはり熱い戦いを繰り広げることができた次第です。これはひとえに参加してくださった皆様の永年に亘るソフトボール大会への熱い思いのお陰かと幹事一同深く感謝しております。今年度は昨年に引き続き六階連合(衛生・公衆衛生・寄生虫学講座)チームが全勝優勝を成し遂げました。同チームは昨年に比べ選手層が薄くなったのですが、



兼子医学部長から6階連合チームへ優勝杯贈呈

コラム 医学部 二ぼれ話

「先生、教室が蒸し風呂のように暑いんです。これじゃあ、授業に身が入りません。エアコンを取り付けてください。」
「それは君らの精進が足りないからだぞ。僕らの頃はそんなことは我慢したさ。」
「でも、これじゃあ中期目標の国試合格率九十五パーセントは覚束ないと思

基礎ソフトボール大会を終えて

平成十六年度幹事代表 早 狩 誠

(生化学第一講座助教)

今年もまた基礎各チーム参加によるソフトボール大会が五月末より七月上旬の約一ヶ月半に亘って開催されました。本大会は例年各講座、施設部門、事務、図書館の皆様の参加にて盛大に行われて参りましたが、プロ野球チームの減少と足並みを揃え、今回のソフトボール大会も参加チーム数が減少してしまいました。しかしながらチーム数が少なくなるとはいえ、各試合ではやはり熱い戦いを繰り広げることができた次第です。これはひとえに参加してくださった皆様の永年に亘るソフトボール大会への熱い思いのお陰かと幹事一同深く感謝しております。今年度は昨年に引き続き六階連合(衛生・公衆衛生・寄生虫学講座)チームが全勝優勝を成し遂げました。同チームは昨年に比べ選手層が薄くなったのですが、

北日本病院懇親 野球大会 観戦記

教授団、久々の逆転勝利

佐々木 睦 男(外科学第二講座教授)



恒例の第四十六回北日本病院懇親野球大会が八月八、十四、十五日の三日間、南塘グラウンドを中心に行われた。決勝は激しい降雨のため、むつ総合病院と公立七戸病院の双方優勝の結果となった。最近、野球人口の減少により年々参加チームが少なくなっていたが、今年には前年より四チーム多い三十七チームとなり大会長としてホッとしているところである。

教授団の一回戦は、南塘グラウンドでの市立秋田総合病院との対戦であった。九時から試合開始となったが、今年には例年にならぬ暑さの中で先発元村投手の好投と若返った教授団の打線がかみ合い、10対9で二年ぶりの勝利をおさめた(写真)。

二連勝を期して二回戦に臨んだ。二回戦は午後一時半から前年度優勝のむつ総合病院との対戦となった。しかし、この頃になると気温は容赦なく上昇し、教授団はかけ声の大きさを割には動きが鈍く、試合の勝敗より暑さのほうが心配な状態であった。果たせるかな、一回表に一点を先制したものの、先発元村投手は連投の疲労が回復せず、ボールが野手のいない所に落ちる不運もあり、瞬間に九点を献上してしまった。その後、思い出したように反撃を試みたものの、結局は四対十五で今年の夏は終了した。酷暑の中、全員、けがや熱中症にもならず二試合を一勝一敗で終了したことは、教授団にとって大きな収穫であった。

1回戦	市立秋田総合病院	3	0	0	4	2	9
	教授団	2	1	4	1	2x	10x
2回戦	教授団	1	0	1	0	2	4
	むつ病院ベアース	9	3	0	3	x	15x

天皇皇后両陛下下拝謁報告

公衆衛生学講座助教授 朝日 茂樹 (国際緊急援助隊医療チーム総合調整部会医院)



拝謁日時：平成十六年五月二十七日(木) 十六時から十六時四十分
拝謁場所：皇居内 蓮翠の間
拝謁団体：国際緊急援助隊医療チーム(パプアニューギニア火山噴火、中国SARS、ベトナムSARS、アルジェリア地震)救助チーム(アルジェリア地震)及び医療チーム(アルジェリア地震、イラン地震)自衛隊の輸送チームなど。

拝謁プログラム：拝謁の前に約一時間の皇居内案内あり、普段は一般参観などで立ち入ることのできる東庭から、更に奥の中庭、南庭、道灌堀、生物学ご研究所、水田、皇居内神社(歴代天皇御霊所)、吹き上げ御所周辺植物管理所(江戸時代からの三百年来の多数の盆栽)など約一時間の参観があった。

両陛下との懇談概要：右と左に両手にお進みになった両陛下のうち皇后陛下からの「どちらへ出かけられましたか？」のご下問から懇談が始まりました。両陛下には、災害医療援助の基本である被災者への外傷、治療、疾患別対応などと共に、今後、命からがら助かった被災者の健康を積極的に守るのが公衆衛生学分野の重要な活動とされたことを深く多とします。国際協力は日本にとっても大切な分野です。これからも元気で勤めるように希望します。(要約)

な仕事である旨上奏した。被災地の女性、老人、子供の健康に関しては、皇后陛下が特にご関心を示され衛生、栄養状態などに関する更に詳しいご下問があり、個人制限時間の二分を大幅に超過し上奏した。四十分の拝謁時間は瞬間に過ぎた。恒例に従い参加者全員が双方に分かれその合間を両陛下が軽く会釈をされるからご退室になるのであるが、ここでハプニングが起きた。天皇陛下の後に進みになっていた皇后陛下が、出口近くに控えていた小生の前にすっとお進みになりひとこと、「公衆衛生ですね」とやや張りのあるお声が「蓮翠の間」に響いた。それと同時に参加者全員から歓声と笑いが湧き上がった。小生は真っ赤になって「覚えていただきありがとうございます」とござ

編集後記

「いまは一杯だ。やさしさが溢れた。皇后陛下の御笑顔が深く心に残った。」

国立弘前大学は本年四月から国立大学法人弘前大学となった。このことは本年度の基盤校費の講座単位での配分額に現れた。すなわち、配分額は学生の教育(授業と実習)に要する金額程度と言つことである。医学部の共通機器の維持費も大幅に削減となり、維持費は受益者負担となる。研究を行うには外部資金の獲得しかないということである。わたしは研究費が充分にないから、なにもできません。とは言えない状況にもある。他学部のある人に聞いたら、退職金を担保に銀行からお金を借りて、これを委任経理金として、研究を続けている人もあるという。医学部でもこれは現実となる。わたしも女房銀行に借金を申し込んだ。兄妹銀行にも借金を申し込んだ。これらの借金を返すあてはない。研究費の獲得がなければ、よほど特殊な技能と知識がなければ大学にいつづける意味はないだろう。私のような平凡な解剖学者が存在しなくても誰も困らないだろう。公募すれば全国から若くエネルギー溢れた解剖学者が応募してくるだろうから。大学に個人が存在し続けるには、存在の意義が公認されなければならないということである。このことは弘前大学の存在の意義が公認されなければ、存在し続けるのは困難であることと同じである。(正村 記)

ヒポクラテスの樹が 医学部正面玄関横に移植される

附属病院立体駐車場の建設のために、病院玄関付近に植樹されているヒポクラテスの樹と碑石の移転が余儀なくされ、医学部環境整備委員会が移植先を検討したところ、医学部正面玄関横が最適であるとの結論に達し、六月に移植が行われました。



ヒポクラテスの樹は、ギリシャのコス島の町にあるプラタナス(スズカケノキ)の古木で、ヒポクラテスが晩年、この樹の下で医学を講じたといわれています。一九五五年、山形の篠田秀

男先生が日本人医師として初めてコス島を訪れ、持ち帰ったヒポクラテスの樹の種子から子樹を育てました。弘前大学医学部のヒポクラテスの樹の歴史は、大内清(中根 記)

人事異動

医学部医学科

- 復職(16・5・28) 歯科口腔外科学講座 助手 松宮 朋穂 研究休職
- 辞職(16・5・31) 脳神経血管病態研究施設 機能回復部門 助手 沈 活
- 休職(16・6・19) 歯科口腔外科学講座 助手 松宮 朋穂 研究休職
- 配置換(16・6・1) 神経精神医学講座 助手 武田 哲 神経科精神科
- 辞職(16・6・30) 外科学第一講座 助手 板谷 博之

附属病院

- 採用(16・7・1) 外科学第一講座 助手 大徳 和之
- 採用(16・8・1) 病理学第二講座 教授 鬼島 宏
- 東海大学医学部助教授 泌尿器科学講座 教授 大山 力
- 秋田大学医学部附属病院講師 神経科精神科 講師 岡田 元宏
- 配置換(16・6・1) 神経科精神科 講師 松宮 朋穂
- 第二外科 助手 柴田 滋
- 医学部外科学第二講座 助手 寺田 一仁(16・6・15)

お悔やみ 耳鼻咽喉科 助手 寺田 一仁(16・6・15)